

JIS

原料ゴム－揮発分の求め方（定量）－ 第 1 部：熱ロール法及びオーブン法

JIS K 6238-1 : 2009

(JRMA/JSA)

平成 21 年 1 月 20 日 制定

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

日本工業標準調査会標準部会 化学製品技術専門委員会 構成表

	氏名	所属
(委員長)	宮 入 裕 夫	東京医科歯科大学名誉教授
(委員)	大 石 奈津子	財団法人日本消費者協会
	奥 山 通 夫	社団法人日本ゴム協会
	笠 野 英 秋	拓殖大学
	加 茂 徹	独立行政法人産業技術総合研究所
	田 中 誠	財団法人鉄道総合技術研究所
	香 山 茂	財団法人化学技術戦略推進機構
	高 橋 信 弘	東京農工大学
	西 川 輝 彦	石油連盟
	西 本 右 子	神奈川大学
	林 田 昭 司	社団法人日本化学工業協会
	堀 友 繁	財団法人バイオインダストリー協会
	中 田 亜洲生	昭和シェル石油株式会社
	村 重 正 行	日本プラスチック工業連盟
(専門委員)	村 井 陸	財団法人日本規格協会

主 務 大 臣：経済産業大臣 制定：平成 21.1.20

官 報 公 示：平成 21.1.20

原 案 作 成 者：日本ゴム工業会

(〒107-0051 東京都港区元赤坂 1-5-26 東部ビル TEL 03-3408-7101)

財団法人日本規格協会

(〒107-8440 東京都港区赤坂 4-1-24 TEL 03-5770-1571)

審 議 部 会：日本工業標準調査会 標準部会 (部会長 二瓶 好正)

審議専門委員会：化学製品技術専門委員会 (委員長 宮入 裕夫)

この規格についての意見又は質問は、上記原案作成者又は経済産業省産業技術環境局 基準認証ユニット産業基盤標準化推進室 (〒100-8901 東京都千代田区霞が関 1-3-1) にご連絡ください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第 15 条の規定によって、少なくとも 5 年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

目 次

	ページ
序文	1
1 適用範囲	1
2 引用規格	1
3 原理	2
3.1 熱ロール法	2
3.2 オープン法	2
4 熱ロール法	2
4.1 一般	2
4.2 装置	2
4.3 手順	2
4.4 結果の表示	3
5 オープン法	3
5.1 一般	3
5.2 装置	4
5.3 手順	4
5.4 結果の表示	5
6 精度	6
7 試験報告	6
附属書 A (参考) 精度	7
附属書 JA (参考) 試料及び測定方法	9
附属書 JB (参考) JIS と対応する国際規格との対比表	10
解 説	13

まえがき

この規格は、工業標準化法第 12 条第 1 項の規定に基づき、日本ゴム工業会 (JRMA) 及び財団法人日本規格協会 (JSA) から、工業標準原案を具して日本工業規格を制定すべきとの申出があり、日本工業標準調査会の審議を経て、経済産業大臣が制定した日本工業規格である。これによって、**JIS K 6238 : 2001** は廃止され、この規格に置き換えられた。

この規格は、著作権法で保護対象となっている著作物である。

この規格の一部が、特許権、出願公開後の特許出願、実用新案権又は出願公開後の実用新案登録出願に抵触する可能性があることに注意を喚起する。経済産業大臣及び日本工業標準調査会は、このような特許権、出願公開後の特許出願、実用新案権及び出願公開後の実用新案登録出願にかかわる確認について、責任はもたない。

JIS K 6238 の規格群には、次に示す部編成がある。

JIS K 6238-1 第 1 部：熱ロール法及びオープン法

JIS K 6238-2 第 2 部：自動赤外線乾燥熱重量法

原料ゴム—揮発分の求め方（定量）—

第 1 部：熱ロール法及びオープン法

Rubber, raw—Determination of volatile-matter content— Part 1 : Hot mill method and oven method

序文

この規格は、2005 年に第 4 版として発行された **ISO 248** を基に、技術的内容を変更して作成した日本工業規格である。

なお、この規格で点線の下線を施してある箇所は、対応国際規格を変更している事項である。変更の一覧表にその説明を付けて、**附属書 JB** に示す。

警告 この規格の利用者は、通常の実験室の作業に精通している者とする。この規格は、この使用に関連して起こるすべての安全上の問題を取り扱おうとするものではない。この規格の利用者は、各自の責任において安全及び健康に対する適切な措置をとらなければならない。

1 適用範囲

1.1 この規格は、熱ロール法及びオープン法による原料ゴム中の水分及びその他の揮発分の求め方について規定する。

1.2 この規格は、**JIS K 6397** に規定する R グループに属するゴム、すなわち不飽和炭素結合をもつゴム、例えば、天然ゴム及び少なくとも部分的にジオレフィンから誘導した合成ゴムに適用する。この規格を他のゴムに適用する場合は、揮発分の測定結果にゴムの劣化によるものを含まないことを立証して適用する。

1.3 この規格の熱ロール法は、熱ロール上で取扱いが非常に困難なゴム（天然ゴム、一部の合成イソプレングムなど）、粉末状のゴム及びチップ状のゴムには適用しない。

なお、熱ロール法及びオープン法は、必ずしも同一の結果を与えるとは限らない。したがって、係争が生じた場合は、オープン A 法を基準試験法とする。

注記 1 この規格の適用範囲を分かりやすくするために、**附属書 JA** にまとめた。

注記 2 この規格の対応国際規格及びその対応の程度を表す記号を、次に示す。

ISO 248 : 2005, Rubber, raw—Determination of volatile-matter content (MOD)

なお、対応の程度を表す記号 (MOD) は、**ISO/IEC Guide 21** に基づき、“修正している”ことを示す。

2 引用規格

次に掲げる規格は、この規格に引用されることによって、この規格の規定の一部を構成する。これらの引用規格は、その最新版（追補を含む。）を適用する。